

平成二十二年 度 静岡県珠算指導者講習会を受講して

静岡地区 鐵 貴 子

平成二十二年 度 静岡県珠算指導者講習会が、平成二十三年五月二十二日(日)にグランシップにて行われました。私事ですが、私の自宅、教室はグランシップの所在地の学区内にあり、最も近いにもかかわらず、毎年、受付が始まったであろう時間に出発し、競輪選手のごとく自転車をかっ飛ばし？滑り込みセーフ!!の会場入りとなってしまうます。今年も「自転車の後ろ姿は高校生みたいじゃない」と冷やかされながら始まりました。

さて本題へ。午前の部の演題は「小学校におけるボランティア指導」についてです。講師は清水地区の澤田幸子



先生(以下、澤田先生と略)です。昨年度講師の谷賢治先生のお話の伝達講習とおっしゃっていましたが、なんのなんの、谷先生のお話に澤田先生ご自身のボランティア指導の経験を織り交ぜてのお話、あっといふ間の二時間でした。

とも付け加えられました。それらは、あくまで算数の一環の授業であるという意識を持って指導を行うという前提があるからと述べられました。

二、学校側の要求に沿ってやること：こちらにも、あくまで算数の授業の一環という前提から、実際の授業前に、学校側がそろばんの授業に対して期待することや要望を十分に話し合い、それに沿った授業を行うこと、そろばん講師の希望の授業ではないということを確認しておくはならないと述べられました。

一、珠算用語を算数の教科書に合わせて変えること(珠算用語は使わない)

とも重ねて挙げてみます。

「普通段「入れる」「払う」などと言っている運珠や「加えて」「引いては」と唱えている読上算ですが、「たす」「ひく」といった、算数の用語に合わせると説明する必要があるとのことでした。ただ、教科書発行会社によって表現がちがっていることもあるので、確認しなければならぬとのことでした。また、読上算の際には、ついつい「〇〇円」と、円をつけてしまいますが、それも「〇〇」と数だけ読むように

一、そろばんを習っている児童をひいきしない：ついつい「そろばんってすごいよ」と見せつけたいが為にやっつけてしまう私ですが、学校では、みんな公平に扱うこと、また学校外で身につけた能力などをひけらかすような授業はさげなければならぬですね。反省。

二、時間を守る：楽しい授業になるほど、児童達が「もう一題、もう一題」「アンコール」と盛り上がりすぎてしまいますが、礼儀として、終了時間をしっかりと守るのが大事とのことでした。こちらでも、普段から「あとちょっと」と自らが延ばしている私としては：耳が痛いところですよ。

三、クラスによって差をつけない：児童、先生方の情報交換ネットワークは素晴らしいものなので、「〇組では教えてもらったのに、自分のクラスは教えてもらえなかった」などとならないようにとのことでした。これまた、どのクラスで何を言ったのか分からなくなっている私にとっては：大変な注意が必要ですよ。

四、全員ができる問題で終わる：せっかくの機会なので、「あゝそろばん楽しかった」「暗算できちゃった」と満足感で締めくりたいものとのことでした。これだけは私もなんとか合格点がとれそうです。締めの問題は「80 たす8は」「そろばんばちばち」と大声援でさようならです!!珠算式暗算でやっていない子が多いと思われまが

また、東京の谷先生、清水の澤田先生が通っていらつしやる学校でのたくさんのお話も、澤田先生がむせながら笑ってしまおうとおっしゃっている姿と相まってとても楽しく聞かせていただきました。澤田先生、自らを振り返る機会を与えてくださるようにお話を頂き、誠にありがとうございました。清水地区ではご老人を対象としたボランティア講座も行っていらつしやることので、成人を対象として医療福祉施設に出講している私にとってまたご質問させていただく機会があると思いがすがよろしくお願いたします。

さて、昼食です。普段はなかなかお会いする機会がない他地区の先生方とも交流ができるとても楽しい時間でした。